

(法第 28 条第 1 項関係「前事業年度の事業報告書」)

## 令和元年度事業報告書

平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会

### 1 事業実施の実績

#### ① 自然に関する理解を深めるための啓発活動の推進

- ・ 今期は、一般を対象とした干潟観察会の開催ができなかった。春は悪天候、夏は暑さのため当初計画から外し、秋は多忙により事業実施に至らなかった。干潟観察会は、当会の中心的な行事であることから次期は必ず開催したいと考える。
- ・ 上記以外のベッコウトンボ、アカテガニ、山国川おサカナ、ズグロカモメと冬鳥などの観察会は例年通り開催した。山国川おサカナ観察会は増水のため期日をずらした影響から参加者が半減したものの、他の観察会は例年同様の参加を維持する事ができた。
- ・ 今期初の試みである、児童生徒を対象にした出張博物館「中津ひがた子どもアカデミア」は、大学や各種団体の協力の下成功裏に開催することができた。地域の環境学習だけでなく子どもの理科教育への関心を引き出すことを目的としたこの催しは、140 名を越える参加者と地域の人々の協力という財産を残した。来期も継続の予定である。
- ・ 今回で 3 回目となる「中津干潟アカデミア・研究発表会」は 200 名余りの参加があった。壇上で個々に発表する形式を変えて、大学、団体ごとにポスター発表形式を採用することで、これまで以上の賑わいを作ることができた。高校生による発表もあり、徐々に若い年齢層を取り込みたい。参加者の満足度の高い研究発表会となつた。
- ・ 上記の研究発表会にあわせて JEAN 小島あすさ氏による 20 周年記念講演を行つた。近年高い注目を浴びるようになった海ごみの最新状況についての解説が聴衆に分かりやすいと好評であった。講演に合わせて海ごみ調査のワークショップ、座談会なども同時に行つた。
- ・ 例年テレビ・ラジオ・新聞などへの取材協力を行つてゐるが、今期も主なもので 8 回 (NHK、OAB、OBS、大分合同新聞等) 程の取材を受け、広報につながる成果を残した。

#### ② 調査研究活動

- ・ 前期に続き、中津市より干潟及び野依新池の調査委託があつた。干潟の調査では、アライグマ定点撮影調査を継続し、初確認することができた。海苔漁場の塩分濃度調査も行い、一定の条件下では 1 週間程度の期間にわたって濃度が半分近くに落ちたままになる事実を記録できた。両調査とも今後も継続し、対策につなげたい。
- ・ カブトガニ関連の調査は、例年同様に産卵、幼生の個体数、混獲された成体などにつ

いて調べた。調査では、大きな変化は認められなかった。

- ・シギ・チドリの調査は、大阪南港ウェットランドグループをはじめ、協力者のおかげで、相対的にも中津干潟の重要性がますます高まってきたことが示された。
- ・前期に継いで、日本文理大学と干潟学習が児童の情操に与える効果について共同研究を行った。一定程度の効果については分かったが、今後さらにデータの収集を重ね科学的な根拠を固めていきたい。
- ・野依新池の調査では、トンボ類を中心に植物、水生生物などの詳しい調査と過去のデータを利用した解析を行い、環境の劣化を科学的に示した。前期末頃に野依新池に接する迫池堤体で行われた大規模伐採の影響による生態系の大きな変化も記録、報告した。報告書では、これらの結果をもとに至急保全作業を行うべきであると提言した。

### ③ 海岸清掃ほか環境美化や廃棄物問題に関する啓発活動

- ・海岸清掃、松林景観再生活動ともに今年度も多くの参加を得て実施できたが、3月の三百間ビーチクリーンは、新型コロナウイルスの影響により中止した。
- ・前期は、毎年清掃と松林に取り組んでいる県立工科短大に加え、小楠小学校、東中津中学校が参加してくれたが、今期は、小楠小学校はビーチクリーンの参加となり、中学校の参加は無かった。

### ④ ブルーツーリズムなどの地域振興を推進する活動

- ・海苔の不漁等により3年連続で海苔漉き体験が実施できなかった。参加者に高評価な行事であることから、次年度は原藻の確保の時期などを工夫して実施したい。
- ・前期に継ぎアカニシを使った染物のワークショップを開始したが、指導できるスタッフが不足したこと、アカニシが含有する染料不足などによりうまくいかなかった。参加者には後日無料で同様のワークショップへの参加を補償したが期中に実現できなかった。

### ⑤ 自然環境に関する情報の収集・蓄積・発信

- ・今期は、編集を担当していた理事長の緊急入院などによりガタガタ通信が年1回の発行しかできなかった。会員への説明責任が果たせない状況にあり、対策が急務である。
- ・HPのリニューアルの効果が徐々に出ていた。アクセス数は年21,900件を越えた。マスコミからの問い合わせもHPからという事例も出てきた。今後も地道に情報提供を行うと同時に、内容の再検討も行いながらステップアップを図りたい。

### ⑥ 民間および公共団体の環境に関する事業に対する支援・提言など

- ・舞手川河口で実施している養浜の試みが5年になるがカブトガニの産卵場所の確保と海岸の保全、河口閉塞の防止という面で効果を上げている。今期は日大教員、学生が調査に訪れた。今後も県土木や研究者とともに、より良い海岸づくりを実施したい。

- ・ 前年度末にベッコウトンボの生息池周辺で大きな環境改変が行われた。これに関して関係行政や地域住民との合意形成が必要になると思われ、中津市への働きかけを行った。役所内部の連絡体制はできたが、依然地域の理解が得られたとは言いがたい状況にある。今後も地域と密接な関係を持ちながら保全への働きかけを行っていきたいと考える。

#### ⑦ 持続可能な社会を追究するためのその他の活動

- ・ ここ数年組織基盤強化及び持続的な経営の確立が急務であるとしていたが、管理業務及び事業実施業務の分散化、組織の高齢化、関係者のスキル不足、若手の担い手不足など課題がはっきりと見えた1年であった。
- ・ 上記の問題に対応して、期末までに事業マニュアルの作成に着手したが、一部のみ完成したものの不完全な状態にある。全事業及び管理業務のマニュアル化を急ぎ、誰もが各業務について、いつでも読んで学べる環境を創造したい。
- ・ 収益事業により何とか従業員の雇用を確保するだけの収入を得ることができた。ただ、年度末に発生した新型コロナウイルスの影響により、事業のほとんどが実施できなくなってしまった場合、固定費が膨らみ健全な経営を維持することが難しくなる。助成金や補助金も返還せざるを得なくなる可能性も高い。状況に応じて従業員の一時帰休等を検討課題とせざるを得ない。そうなった時の対応も準備しておく必要がある。
- ・ 過去5年にわたり、基盤強化、自己資金の確保をテーマに活動を行ってきたが、理事長へ依存偏重状態は依然解消できていない。理事他事務局スタッフ一同でもう一度真剣に考え、自覚を持って運営に関わる必要がある。次年度への課題として皆の自覚を促したい。
- ・ 台湾の環境省にあたる行政院環境保護署の視察団が「ひがたらぼ」を訪問した。福岡県、北九州市と当会を視察した。この他にも、各種多数の団体からヒアリングや視察を受けている。このように専門性の高い組織・団体に対しては高い知名度があることが再確認できた。だが一般への周知率を上げられなければミッション達成は遠いことも理解しておく必要がある。

#### ⑧その他

- ・ 総じて事業活動については、ギリギリ合格点では無いかと思われる。ただ、干渴や水辺環境の保全、動植物の保護という意味ではほとんど進展が見られないという現実は変わらない。ベッコウトンボの池周辺では環境改変が続き、これに対する積極的な措置が行われていない。行政への積極的な働きかけや市民全体の意識の醸成、情報の発信など、本来の目的である「環境保全」についても今後どのような展開を行うか検討する必要がある。

(法第28条第1項関係「前事業年度の事業報告書」)

## 令和元年度事業報告書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会

### 2 事業の実施に関する事項

#### 特定非営利活動に係わる事業

定款の事業名						
事業内容	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲	受益対象者の人数	支出額(円)
<b>① 自然に関する理解を深めるための啓発活動の推進</b>						
自然観察会	ベッコウトンボ観察会	5/3	野依地区	7名	市民他	54名
	春の干潟観察会	中止	大新田		市民他	
	アカテガニ観察会	7/30	山国川	10名	市民他	39名
	山国川おサカナ観察会	8/3	大新田	11名	市民他	18名
	スグロカモミと冬鳥観察会	12/2	東浜	11名	市民他	24名
その他行事	海の絵コンテスト	夏休み	中津市内	4名	児童	874名
	夏休みワークショップ <sup>°</sup>	夏休み	ひがたらぼ	2名	市民他	46名
	JEAN海ごみ座談会	12/21	小楠コミュニティ	9名	市民他	17名
	海ごみ調査ワークショップ	12/21	ひがたらぼ	8名	市民他	18名
	ひがたかふえ	5・7・9・11・1月	ひがたらぼ	3名	市民他	18名
小学校での環境学習指導						
中学校での環境学習指導						
短大・大学の環境学習講師						
社会教育の場などでの講師						
企業・その他団体他での講師						
中津ひがた子どもアカデミア						
中津干潟アカデミア						
マスコミ対応(主なもの)						
<b>② 調査研究活動</b>						
生物調査(カブトガニ)						
生物調査(シギチドリ類他)						
生物調査(ベッコウトンボ・生息地)						
その他(アライグマ・漁場塩分)						
他機関との協働(水産大・文理大・群馬大・日大・長崎大・トンボ学会・応用生態技術研究所)						

2,423,710

1,949,873

③ 海岸清掃ほか環境美化や廃棄物問題に関する啓発活動						
ビーチクリーン (漂着物調査)	大新田海岸	5/12・9/8・12/1	大新田	27名	市民他	585名
	三百間海岸	中止	三百間		市民他	
	漂着物調査	1回	大新田	2名		
	学生への指導	2回	大新田	5名	学生	192名
児童向海ごみ学習用冊子増刷		6月	大分県内	2名	児童・県民他	2000冊
松林景観再生	一般参加作業	5/12・9/8・12/1	大新田	3名	市民他	134名
	専門作業	19回	大新田	12名	学生・市民他	4名
	学生への指導	1回	大新田	1名	児童・学生他	60名
④ ブルーサーリズムなどの地域振興を推進する活動						
魚食推進	帝王紫ワークショップ	7/25	ひだまり	6名	児童・市民他	11名
⑤ 自然環境に関する情報の収集・蓄積・発信						
会報誌発行		1回	国内	1名	国内	500名
ホームページ維持管理		通年	国内	2名	不特定	21,900アクセス
生物データベース管理		通年	国内	3名	不特定	
環境イベント出展		1回	今津	3名	不特定	
⑥ 民間および公共団体の環境に関する事業に対する支援・提言など						
野依新池ベッコウトンボ保全提言		4/8	市役所	1名	団体	1名
環境省瀬戸内小委員会		10/8	東京	1名	行政・市民	約60名
台湾行政院環境保護署視察受入		11/22	ひがたらぼ	2名	行政・市民	19名
野依新池ベッコウトンボ保全作業		11/30	野依地区	9名	市民他	25名
団体ヒアリング受入		4回	ひがたらぼ	8名	団体	4名
五十石川連携ほか		通年	中津市内	2名	市民他	
海岸事業に関する検討		通年	中津市内	4名	行政・市民	
ベッコウトンボ保全に関する検討		通年	中津市内	2名	行政・市民	
⑦ 持続可能な社会を追究するためのその他の活動						
NPO経営ヒアリング		1/11	ひがたらぼ	4名	個人	1名
「ひがたらぼ」運営		通年	ひがたらぼ	5名	不特定	
NPO基盤整備		通年	ひがたらぼ	5名	不特定	
商品(カブトガニサブレ・海苔他)販売		通年	中津市・外	3名	不特定	

534,473

16,432

132,681

518,754